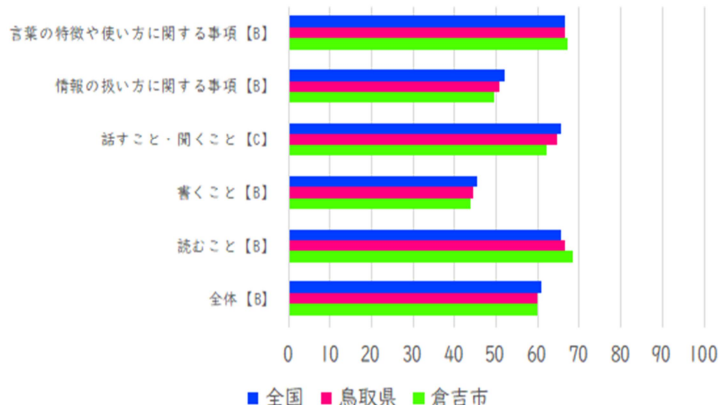


令和8度 全国学力・学習状況調査結果概要【倉吉市】

教科に関する調査/小学校

※表及びグラフの数値はすべて平均正答率（％）を表しています。倉吉市及び鳥取県の全体数値は小数点以下が表示されていません。

国語		全国	鳥取県	倉吉市
知識及び技能	言葉の使い方に関する事項	66.8	66.7	67.2
	情報の扱い方に関する事項	52.3	50.9	49.8
思考力 判断力 表現力	話すこと・聞くこと	65.8	64.9	62.2
	書くこと	45.7	44.5	44.1
	読むこと	65.9	66.7	68.6
全体		60.9	60	60

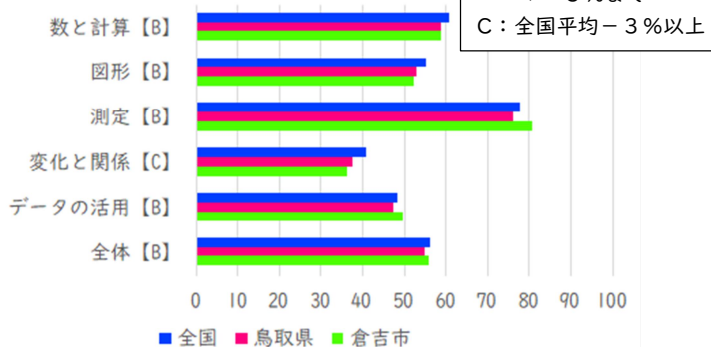


※全体平均正答率は、全国平均並

- 「書くこと」について全体的には全国・県平均より低い正答率ですが、そのうち「引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」はよくできていました。（全国比＋3％）
- 「読むこと」のうち「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」がよくできていました。（全国比＋8.5％）
- 記述式の問題の正答率がすべて全国平均・県平均を上回りました。
- ▲「話すこと・聞くこと」のうち「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる」に課題がみられました。問題の文章や図と解答内容の関連付けが不十分であり、根拠を明確にしないまま解答を選択している傾向がみられます。（全国比－7％）

※表及びグラフの数値はすべて平均正答率（％）を表しています。倉吉市及び鳥取県の全体数値は小数点以下が表示されていません。

算数	全国	鳥取県	倉吉市
数と計算	61.1	59	59.1
図形	55.3	53.1	52.6
測定	78.1	76.3	80.8
変化と関係	41.1	37.7	36.6
データの活用	48.6	47.6	49.9
全体	56.4	55	56



評価について【 】
A：全国平均＋3％以上
B：全国平均同等から
＋－3％まで
C：全国平均－3％以上

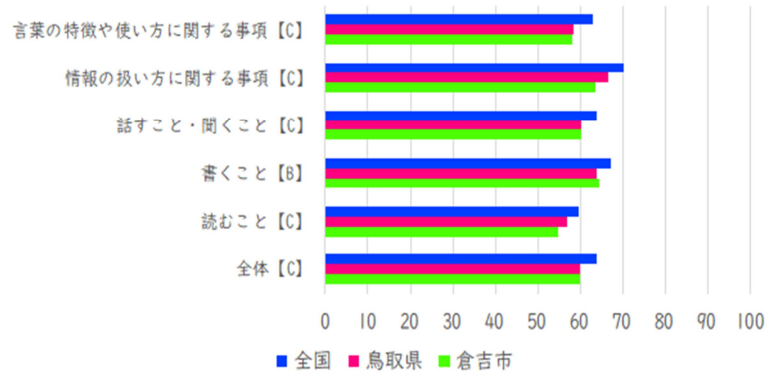
※全体平均正答率は、全国平均並

- 「数と計算」のうち、「小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくることができるかどうかをみる」が高い正答率でした。
- 「データの活用」のうち、「示された二つの表から、集計に誤りのある項目を見付け、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述できるかどうかをみる」がよくできていました。（全国比＋11.1％）
- 「数と計算」「測定」うち、「示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めることができるかどうかをみる」がよくできていました。（全国比＋2.7％）
- ▲「数と計算」「変化と関係」のうち、「基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる」は正答率が低く、課題がみられました。もとにする量から考えることや立式ができておらず、根拠を明確にしないまま解答を選択している傾向がみられます。（全国比－7.9％）

教科に関する調査/中学校

※表及びグラフの数値はすべて平均正答率（％）を表しています。倉吉市及び鳥取県の全体数値は小数点以下が表示されていません。

国語		全国	鳥取県	倉吉市
知識及び技能	言葉の使い方に関する事項	63	58.6	58.3
	情報の扱い方に関する事項	70.4	66.8	63.7
思考力判断力表現力	話すこと・聞くこと	63.9	60.3	60.4
	書くこと	67.4	64	64.7
	読むこと	59.7	57	54.9
全体		63.9	60	60

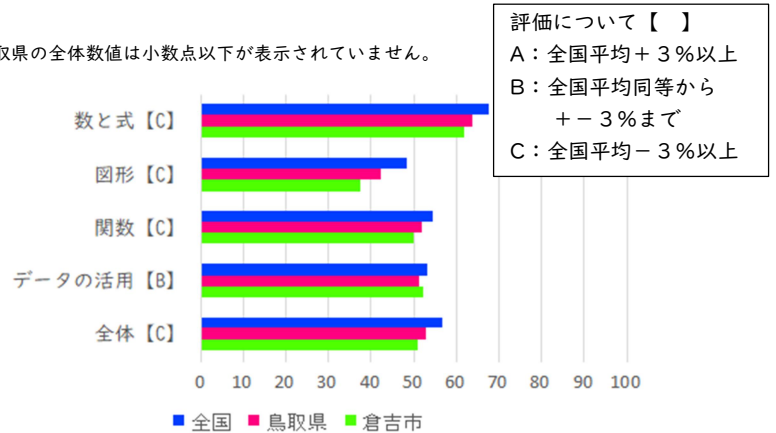


※全体平均正答率は、全国平均を 3.9 ポイント下回りましたが、昨年度より改善傾向にありました。

- 「書くこと」のうち「表現の効果を考えて描写することができる」が高い正答率でした。
- 「書くこと」について、全体的には全国・県平均より低い正答率ですが、そのうち「表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことができるかどうかをみる」がよくできていました。（全国比＋1％）
- ▲「言葉の使い方に関する事項」のうち「語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができるかどうかをみる」が低い正答率でした。題意の把握と、言葉の意味理解が不十分な傾向がみられます。
- ▲「読むこと」のうち「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうかをみる」が低い正答率でした。条件に沿って書くことができていない傾向がみられます。

※表及びグラフの数値はすべて平均正答率（％）を表しています。倉吉市及び鳥取県の全体数値は小数点以下が表示されていません。

数学		全国	鳥取県	倉吉市
数と式		67.8	63.8	62.1
図形		48.7	42.4	37.8
関数		54.8	52	50.1
データの活用		53.5	51.4	52.4
全体		57	53	51



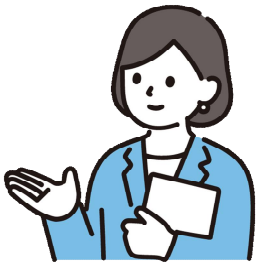
※全体平均正答率は、全国平均を 6 ポイント、県平均を 2 ポイント下回りましたが、昨年度より改善傾向にありました。

- 「数と式」について、全体的には全国・県平均より低い正答率ですが、そのうち「具体的な場面において、正の数と負の数を用いて変化や状況を表すことができるかどうかをみる」が高い正答率でした。
- 「データの活用」のうち、「累積度数の意味を理解しているかどうかをみる」が、全国・県平均を上回りました。（全国比＋3.9％）
- ▲「数と式」のうち、「同類項の意味を理解しているかどうかをみる」が、全国平均・県平均と比べて低い数値でした。基礎知識の習得が不十分な傾向がみられます。（全国比－11.8％）
- ▲「図形」のうち、「筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる」についての正答率が、低い数値でした。論理的に順序立てて考えた証明ができていない傾向がみられます。（全国比－14.2％）

中学校英語は、IRT に基づいた調査となります。

■IRT (Item Response Theory：項目反応理論)

■IRT スコア：IRT とは、 国際的な学力調査（PISA、TIMSS など）や英語資格・検定試験（TOEIC・TOEFL など）で採用されているテスト理論です。学調で各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準にした得点で表します。スコアは、難易度の高い問題に正答していると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。



IRTに基づく調査のイメージ

視力検査を例としたイメージ

※イメージを表すことを目的として作成したため、示された7つのランドルト環の大きさ（難しさ）がAさんとBさんと異なっている。

	素点方式（正答数・正答率）	IRT方式																								
得点(スコア)の表現方法	何個のランドルト環（C） を見ることができたか	どの大きさのランドルト環（C） を安定的に見ることができたか																								
得点(スコア)の例	<table><tr><td>0.1</td><td></td><td></td></tr><tr><td>0.2</td><td></td><td></td></tr><tr><td>0.3</td><td></td><td></td></tr><tr><td>0.4</td><td></td><td></td></tr></table> Aさん 5問/7問 (正答率71%) > Bさん 4問/7問 (正答率57%)	0.1			0.2			0.3			0.4			<table><tr><td>0.1</td><td></td><td></td></tr><tr><td>0.2</td><td></td><td></td></tr><tr><td>0.3</td><td></td><td></td></tr><tr><td>0.4</td><td></td><td></td></tr></table> Aさん 0.2 < Bさん 0.3	0.1			0.2			0.3			0.4		
0.1																										
0.2																										
0.3																										
0.4																										
0.1																										
0.2																										
0.3																										
0.4																										

素点方式の場合は、Aさんの方が正答数（見ることができたランドルト環の数）・正答率が高くなります。

IRT方式の場合は、Bさんの方がスコア（視力）が高くなります。

※文部科学省

IRT を用いた結果返却について
（一部抜粋）

公開問題 10 問と非公開問題
12 問の計 22 問が出題されて
います。

	平均正答数	技能別平均正答数		平均 IRT スコア
		聞くこと	読むこと・書くこと	
全国	3. 7 / 7	1. 2 / 2	2. 5 / 5	4 9 9
鳥取県	3. 1 / 7	1. 0 / 2	2. 2 / 5	4 6 9
倉吉市	3. 0 / 7	1. 0 / 2	2. 1 / 5	4 6 0

- 「聞くこと」のうち、「日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる」が高い正答率でした。
- 「読むこと」のうち、「音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、読むことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる」が高い正答率でした。
- ▲「聞くこと」のうち、「日常的な話題について、話を聞き、要点を捉えることができるかどうかをみる」について課題がみられました。根拠となる英文と選択肢となる絵を結びつけて考えることができていない傾向がみられます。（全国比－16.4％）
- ▲「書くこと」については、全体的に正答率の低い傾向が見られました。特に、「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる」に課題がみられました。条件を満たしているものの、文法に誤りがある解答と、無回答が多くみられました。（全国比－11.8％）

全体的に根拠を明確にしたり、論理立てて説明したりすることに課題がみられました。国語、算数/数学だけでなく、様々な教科において「なぜそうなるのか」「根拠はどこにあるのか」といったことを追求したり、表現したりする力が必要だと考えられます。